

授業概要

人類は生物多様性（ヒトを含めた様々な生物のつながりとそれらを支える環境からなる全体）のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存している。しかし、現代社会は生物多様性による恩恵を過小評価し、環境悪化はますます深刻化して解決困難な様相を呈している。

本講義では、自然科学・社会科学的な視点から「生物多様性」を捉え、問題解決には何が必要なのかを考えることを目的としたい。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「ヒトと自然とのつながり」に焦点をあてつつ、生物多様性保全について理解できるような講義構成となっている。

授業計画

第1回	ガイダンス（講義の進め方や成績の評価方法などについて）
第2回	野生動物への餌づけ（野生動物へ餌をあげることによる影響）
第3回	野生動物の交通事故（野生動物の交通事故の原因と対策）
第4回	絶滅の危機に瀕している生き物たち1（レッドリストとレッドデータブック）
第5回	絶滅の危機に瀕している生き物たち2（生物が絶滅する原因）
第6回	森林機能と緑のダム（きれいな水を生み出すしくみ）
第7回	河川にすむ生き物たちとダム（ダムが生み出す功罪）
第8回	干潟にすむ生き物たち（「諫早干拓事業」を通して考える現代の農林水産業）
第9回	漁業資源の枯渇（魚介類の消費と乱獲から考える南北問題）
第10回	サンゴ礁にすむ生き物たち1（海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ）
第11回	サンゴ礁にすむ生き物たち2（沖縄に集中する米軍基地と環境問題とのかかわり）
第12回	戦争と自然破壊（今も続くベトナム戦争やイラク戦争の爪痕）
第13回	山と海をつなぐ川1（山は海の恋人とよばれる理由とは）
第14回	山と海をつなぐ川2（サケ・マス類の研究からわかる山と海をつなぐ）
第15回	文明の崩壊と自然破壊（古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性）
第16回	筆記試験

到達目標

「環境問題は社会問題である」ことを理解するために、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する習慣を身につけることができるよう、受講者の「多面的視点」を養成することを目的としたい。また、講義毎（講義時間内に行なう）に必ずレポートを提出させることによって、講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、理解する訓練としたい。

履修上の注意

受講生にとって興味深いであろう、とっておきの問題の題材ばかりを集め、また、受講生の人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意していると自負している。魅力的な講義ができるよう最大限の努力をしていく所存である。また、原則的に講義毎に必ずレポートを提出してもらおう（講義時間内に行なう）。これは、講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練である。またガイダンスに出席していない者の受講は原則的に認めないので注意するように（どうしても出席できない場合はガイダンスの事前に、あるいは2回目の講義前までに欠席理由とともに申し出ること。

なお、携帯電話を講義中に操作する者、断りもなく出歩く者は本講義の受講を禁じる。

予習・復習

特に予習復習を必要としない。

評価方法

レポートと筆記試験によって評価する。ただし、評価の70%は、講義毎に提出するレポートの総合得点を当てるものとする。

テキスト

使用テキスト… 小島望『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30の物語（農山漁村文化協会出版）』